

<基となる事例>

「 お店屋さんをしよう 」

【活用事例】

「 秋 」 ～ おみこしごっこをしよう ～

事例活用の理由

- 子供の言葉からつながる保育（プロジェクトアプローチ）を基本とし、子供の自主性を重んじながら、身近なものと対話し、知識を整理する活動や主体的な体験活動を大切にしている。  
※プロジェクトアプローチ：子供主体のテーマを基盤とし、対話を通して発展的に展開する。
- 『お店屋さんをしよう』の「目的に向かって、自分の思いを伝えたり、友達の思いを聞いたりしながら、友達と活動を進めていく。」や「相手にわかるように話をしたり、友達の話をよく聞いて活動内容を一緒に考えたりして、自分の思いを調整する経験を通して、みんなで活動をやり遂げた満足感や達成感を味わう。」というねらいの良さを感じ、本園の活動に取り入れたいと考え、事例を活用した。

保育者の願い（ねらい）

- 「秋」というテーマから地域に伝承行事があることを知る。
- 「おみこしごっこ」の活動を通して、子供同士の対話を大切にしながら、自分の考えや体験したことを表現することの楽しさや喜びを感じ、自分達の思いを実現していくことで達成感や満足感を味わう。
- 子供の自主性を重んじ、主体的な活動を通して、表現することの大切さや良さに気づき、自由な表現ができるようになる。

アレンジした点・工夫した点

- 子供が何に興味をもち、どのようなことをしたいと考えているかを把握した上で、活動が展開しやすいように、様々な教材や素材、道具を準備し、製作や活動に適した空間そして活動できる時間を十分に確保して、意図的な環境構成を行った。
- 子供が選択、判断、決定、実行できる場面や環境をつくり、一人一人の子供を丁寧に見取りながら、それぞれに適したタイミングで、必要に応じた援助を行うようにした。

これまでの経緯

- 「秋」について、子供達の知っていることやイメージをサークルタイムで確認した。
- 家庭から「秋」と思うものを持ち寄り、みんなに話をした。
- 保育者が地域と連携を図りながら、保育者自身が地域の秋まつりに参加させてもらった。
- 地域の秋祭りに興味をもち、実際におみこしを家族で見学しに行った子供がいたり、当日のおまつりの様子やおみこしを担いでいる様子のビデオをみんなで見たりした。
- おみこしを絵に描いたり、ブロックや積み木で作成したりした。

## 当日の活動の様子

- 絵を描いたり、ブロックや積み木で作ったりしているうちに、自分たちがおみこしを担いでみたいという思いが高まった。
- 「おみこしのまわりはこんな色にしたらいいんじゃない」「おみこしの写真ではこんな色だったよ」「じゃあ、屋根の部分は黒色で塗ろうよ」など、子供たち同士で対話をしながら、子供たちが自分の思いを友達と伝え合い、おみこしの形を工夫改善しながら表現し、具現化していく主体的な姿が見られた。
- 保育者や保護者で教材・素材をたくさん用意し、子供自らが素材を選び、主体的におみこしを作れるような環境を整えていた。
- 保育者は、「どうしたらよいと思う？」と子供に投げかけ、子供たちの考えや思いを大事にしなが、活動を見守り、必要に応じて素材の特性を生かせるようなアドバイスをすることで、子供自身で形にしていけるよう援助していた。また子供が創作している場面では、それぞれのアイデアや活動を称賛し、認めることで、満足感や達成感を感じられるようにしていた。



## 「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」の表れ

- 自分の経験や思いを相手にわかるように話そうとした。（言葉による伝え合い）
- どのようなおみこしを作るか、自分の考えを絵に描いて表現したり、ブロックや積み木で表現したりした。（豊かな感性と表現）
- おみこしを自分たちで作ることで、地域の文化や季節の行事についての興味・関心をもつことができた。（社会生活とのかかわり）
- 子供たち同士の対話から、自由な発想があふれ、おみこしの形を具現化して、つくりあげることができた。（豊かな感性と表現）  
（言葉による伝え合い）
- 友達と一緒に力を合わせておみこしを作る活動を通して、友達とかわる楽しさや達成感、満足感を味わった。（協同性）
- 自分たちで作ったおみこしをみんなで協力して担ぎ、「おまつりごっこ」をすることで、おまつりの楽しさや友達と力を合わせることのよさを味わった。（協同性）



## 基となる事例を活用しての成果

- 子供自身の「やってみたい」「作ってみたい」という思いや言葉を大事にしなが、活動を進めたことで、より自由な発想や表現を生み出すことができた。
- 子供自身で「おみこし」という形にできたことや、みんなで作った「おみこし」を友達と一緒に担げたことで、達成感や満足感を感じることができた。また、地域の文化に興味・関心が高まり、季節とのかかわりを感じ取ることができた。

